

令和4年6月 大槌町議会定例会

行政報告

令和4年6月3日

大 槌 町

本日、ここに令和4年6月大槌町議会定例会の開会にあたり、3月定例会以降における町政運営について、ご報告を申し上げます。

1 はじめに

(大槌町職員の不祥事に係る第三者委員会の設置について)

はじめに、令和2年4月から令和3年9月までの1年半にわたり、議決後の条例46件、決裁後の規則36件の公布手続きに不備があったこと並びに役場庁舎等における消防計画の未作成について、その概要と、原因究明及び再発防止策等を図るため、第三者委員会を設置することについて、広報おおつち5月号に町民の皆様へお詫びと報告を申し上げたところであります。

また、去る5月27日(金)に開催された令和4年第3回大槌町議会臨時会において、大槌町職員の不祥事に係る第三者委員会設置条例が議決され、本条例を制定したところであります。

今後、町民の皆様へ説明責任を果たすため、広報誌やホームページを活用して、第三者委員会の経過等について適時に報告してまいります。

なお、役場庁舎の消防計画については、去る3月29日(火)に大槌消防署へ提出し、不備があった他の5施設についても、防火管理者の選任、消防計画の提出を完了しております。

また、去る4月26日(火)には、役場庁舎において、職員だけでなく、来庁者にもご協力いただき消防訓練を実施しました。今回の訓練を踏まえて、課題

などを検証し、本年 11 月に再び訓練を実施いたします。

2 熊の出没状況と対策について

次に、熊の出没状況と対策について申し上げます。

熊の出没状況については、今年度は例年に比べ 2 倍以上である、30 件を超える目撃報告が寄せられております。沢山地区や吉里吉里地区をはじめ、住宅密集地での目撃が続いており、5 月 19 日（木）から月末にかけては、吉里吉里地区住宅密集地での飼育小屋や物置の物損被害もあり、町では、熊の隠れ家となりそうな藪を除去しておりました。去る 5 月 30 日（月）、吉里吉里地区において藪の除去を行っていたシルバー人材センターの作業員が、熊に襲われる被害にあいました。

地域住民の生活が危険と隣合わせにある状況が続いていることから、去る 6 月 2 日（木）、町は地区自治会代表者と一緒に釜石警察署に対し、熊の駆除対策について、要望を行ったところです。

引き続き、猟友会・保健所・警察署・地域自治会など関係機関と連携し、パトロールや追払い、藪の除去、場合によっては、罠による捕獲などの熊による被害対策を実施してまいります。

3 新型コロナウイルス感染症への対応状況について

次に、新型コロナウイルス感染症への対応状況について申し上げます。

5月24日時点における、ワクチン3回目の接種率は、65歳以上の方で87.1%、12歳から64歳までは、68.4%、また、5歳から11歳の2回目接種率は30.2%となっており、若年層の接種率が低いことから、集団接種の有効性に対する理解と接種が図られるよう取り組んでまいります。

岩手県では、本年1月に感染急拡大による医療体制の逼迫を踏まえ「岩手緊急事態宣言」を独自に発令しましたが、本年5月のGW以降、新規感染者数の減少傾向が続いたことから、去る5月30日（月）をもって解除されました。今後においても感染予防を実施しつつ、地域の経済回復や社会活動が展開できるよう取り組んでまいります。

また、新型コロナウイルスに感染した場合、極めて重症化の傾向がある60歳以上の方、及び基礎疾患を有する方等を対象としたワクチンの4回目接種について、今月下旬の接種開始に向け準備を進めております。ワクチン接種について皆様のご理解とご協力をお願いします。

以下、各分野の取り組みについてご報告申し上げます。

4 各分野の取り組みについて

【産業・観光】

(地域経済対策について)

はじめに、地域経済対策について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている町内事業者を応援するため、

また、キャッシュレス決済推進のため、町内 169 店舗において、キャッシュレス決済サービス「PayPay」で決済した場合に、支払額の最大 20 パーセントのポイントが戻ってくるキャンペーンを実施しているところです。

また、本年 6 月から町内の各宿泊事業者が、アフターコロナを見据えた宿独自の魅力向上を図る宿泊誘客キャンペーン事業を展開しております。

同様に、飲食事業者による店舗独自の魅力向上も順次開始する予定としており、引き続き、町内の事業者の皆様と情報交換を行い、町の魅力発信と町内経済の振興のため、積極的に新たな施策に取り組んでまいります。

(岩手大槌サーモンの取り組みについて)

次に、岩手大槌サーモンの取り組みについて申し上げます。

岩手大槌サーモンについては、3 期目の水揚げが開始されたところであり、今年度の計画数量は、400t を見込んでいると報告を受けております。岩手大槌サーモンの生産拡大及び安定生産のため、生産から販売まで関わる事業者と関係機関による「岩手大槌サーモン推進協議会」を立ち上げ、町内一丸となった体制を構築し、取組支援を進めてまいります。

また、来る 6 月 12 日（日）、全国豊かな海づくり大会記念公園を会場に第 2 回岩手大槌サーモン祭りを開催する予定であり、岩手大槌サーモンの知名度向上及び消費拡大を行ってまいります。

今年度は、大槌町郷土芸能祭と同時開催し、相互効果により町内外のお客様

をお迎えし、岩手大槌サーモンを PR しつつ、併せて大槌町の魅力を発信してまいります。

(観光物産拡大に向けて)

次に、観光物産拡大に向けた取り組みについて申し上げます。

町では、多くの観光客に大槌を訪れて楽しんでいただけるよう、国内外に発信力のあるアニメの活用に取り組んでまいりました。このたび大槌駅イメージキャラクター「大槌カイ」を起用したアニメーション短編動画を制作し、去る3月21日(月)に開催したオンラインアニメイベント「おおつちアニメフェスタ」において一般公開を行いました。この動画は制作協力団体である大槌町観光交流協会の Web サイトから YouTube で閲覧いただけます。このほか、三陸♡おおつち PR 大使の所属ユニット「アンダーパス」さんと連携した「桃畑学園サーモン」のプロモーション動画を制作し、同 YouTube チャンネルで放映中であります。

また、町内への誘客を図るため、第2回目となる「岩手大槌サーモン祭り」や、昨年度好評を博した郷土芸能団体による「かがり火の舞」を実施するなど、町の特産品と文化を同時に発信し、町全体を PR する取り組みを強化してまいります。

加えて、浪板海岸の砂浜再生工事が完了したことから本年は震災後初となる待望の浪板海岸海水浴場開設を予定しております。浪板海岸のシャワー、トイ

レ・更衣室は本年3月に完成しており、町内外の海水浴客をお迎えする準備を整えております。吉里吉里海岸についても平成30年以来4年ぶりの海水浴場開設を予定しております。

【健康・福祉】

(認知症対応型共同生活介護事業所の開所について)

次に、認知症対応型共同生活介護事業所の開所について申し上げます。

大槌町老人福祉計画・第8期大槌町介護保険事業計画にて整備予定であった認知症対応型共同生活介護事業所「けあビジョンホーム大槌」が、去る6月1日(水)に開所しました。施設整備により、認知症の方をご家庭で介護するご家族の負担軽減、入所待機者のニーズにお応えできる体制が整ったところであり、6月1日現在、2ユニット18名の定員に対し、7名が入居しております。

また、新型コロナウイルス感染症対策としまして、本年3月に町内3事業所に簡易陰圧装置6基の設置が完了し、施設内でのクラスター発生の予防に大きく寄与することが期待されます。

【教育・文化】

(教育相談体制の充実)

次に、教育相談体制の充実について申し上げます。

岩手県で毎年実施している「心とからだの健康観察」によると、大槌町にお

いては、ストレス反応の高い、いわゆる「要サポート」の児童生徒の割合が県内平均の 12.7%と比較して、21.2%と依然として高いことから、引き続き、各学園にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談に係る体制の充実に取り組んでまいります。

また、今年度から先進的な取り組みとして、スクールソーシャルワーカーを町の職員として雇用いたしました。今後、スクールソーシャルワーカーを核として、大槌の子供たちのこころのサポートのさらなる充実に努めてまいります。

(大槌町 GIGA スクール推進の状況)

次に、大槌町 GIGA スクール推進の状況について申し上げます。

「大槌町 GIGA スクール事業」については、各学園の児童生徒全員に 1 台のタブレット端末を配置し、日常的に授業で活用しております。

これらの実践を通して、タブレット端末の効果的な活用を推進し、児童生徒の「情報活用能力」の向上を図ってまいります。

また、タブレット端末の持ち帰りについても、今年度は 7 年生以上に拡大し、家庭学習や調べ学習等の活用により、主体的な学びの支援に活用してまいります。

(大槌高校魅力化の取り組み)

次に、大槌高校魅力化の取り組みについて申し上げます。

大槌高校魅力化については、今年度、県外から6名のはま留学生を迎え入れることができました。大槌町での暮らしを応援するため、去る4月9日（土）、はま留学生歓迎式を行い、小松町議会議長をはじめとする来賓のご臨席のもと、昨年度入学の1名を含めた7名の留学生に歓迎証を交付しました。

また、大槌高校は、今年度から新時代に対応した特色・魅力ある教育を展開できる文部科学省の普通科改革支援事業指定校になりました。町内外に誇れる高校として、さらなる魅力の構築に努めてまいります。

（生涯学習の推進について）

次に、生涯学習の推進について申し上げます。

昨年度より供用開始した「大槌町郷土財活用湧水エリア」において、去る4月23日（土）に郷土財エリア保全活用委員会委員を中心に、大槌高校はま研究会の生徒や岩手県立大の学生、地元ボランティアの皆さんのご協力のもと、希少植物であるミズアオイの生息池の攪拌作業や木道の設置を行ったところがあります。

去る5月13日（金）に開催した「郷土財エリア保全活用委員会」では、その活動を報告するとともに今年度の活動内容について協議しました。その中で当町の学校教育の特色のひとつである「ふるさと科」におけるイトヨ授業を今後も継続すること、そして、東日本大震災津波を起因として、新たに生まれた非常に貴重な遺伝子を持つイトヨや、農薬への耐性が無いミズアオイといった希

少動植物等の保全活用に今後も取り組み、郷土の財産への認知度の向上に努めることを確認したところです。

また、例年5月最終水曜日に実施しておりました「チャレンジデー」につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防の観点から一昨年、昨年に続き、今年度も中止としたところです。近年、イベントのマンネリ化や町内の関係機関への負荷が課題として挙げられていることから、去る5月19日(木)に開催したチャレンジデー実行委員会総会において、今年度をもって実行委員会を解散することが了承されました。

なお、「チャレンジデー」に代わる新たなスポーツイベントとして、改めてスポーツの習慣化や健康増進を目的に町民を対象としたスポーツ企画の展開を検討してまいります。

(震災伝承プラットフォーム運営会議報告書について)

次に、震災伝承プラットフォーム運営会議の報告書について申し上げます。

本運営会議は、分科会である各ワーキンググループの検討内容も踏まえ、年3回に渡って開催されました。報告書は、「全ての町民が震災伝承に関心を持ちつづけ、とりわけ教育現場での取組促進が効果的であること、伝承の場所は物ありきの整備に拘ることなく、語り部活動や教育活動等ソフト面の活動とタイアップする必要があり、この事が町民の相互理解を深め、真の大槌らしい震災伝承となり得る」との提言でありました。

これらを踏まえ、本年度は、語り部育成や震災教育については実施段階へ着手し、震災伝承の場の整備についてはまず AR, VR 技術を活用したコンテンツ作成を手掛け、具体的なハード整備については関係者や町民と更に一層深掘した議論を通して具体的整備のあり方を探ってまいります。

((仮称) 鎮魂の森基本設計に係る説明会について)

次に、(仮称) 鎮魂の森基本設計に係る説明会について申し上げます。

説明会は、去る 3 月 27 日(日)におしゃっちで開催したほか、4 月 17 日(日)に、吉里吉里地区、赤浜地区、安渡地区、町方地区の 4 会場において、町民の皆様に対して、整備に向けた町の理念や方針等を説明させていただきました。参加者は、両日で 46 名の参加をいただいたところであります。

また、現在、ご遺族等に対して、芳名板への刻銘に係る意向確認を進めながら、今月には、整備に係る実施設計業務の入札を実施する予定としており、整備に向けて鋭意進めてまいります。

【安全・快適】

(災害に強いまちづくりの推進)

次に、災害に強いまちづくりの推進について申し上げます。

県は、本年 3 月末に「津波防災地域づくりに関する法律」に基づき、避難等のソフト対策の検討に資することを目的として、最大クラスの津波を想定した

新たな津波浸水想定の設定及び公表を行いました。

それを受けて、町では去る5月21日（土）、県と合同で、新たな津波浸水想定住民説明会を開催し、59名の町民の皆様に参加いただきました。今後、町では新たな津波浸水想定区域に対応した指定緊急避難場所及び指定避難所の見直しを行い、その内容を大槌町地域防災会議にお諮りしたうえで、新たな防災マップを作成いたします。新たな防災マップは、町民の皆様へ全戸配布するほか、防災マップに関する住民説明会を各地区において開催する予定としております。住民説明会と並行して、自主防災連絡会の開催や大槌町防災サポーターとの連携を深める取り組みを実施し、地域の防災意識の向上に努めてまいります。

また、議会等でご指摘をいただいております、周辺自治体より震度が小さく観測されている大槌町の地震計については、今年度、岩手県の負担により移設することが決定しました。移設にあたっては、場所の選定などについて、盛岡地方気象台のアドバイスを受けながら、県と調整を行ってまいります。今月には現地調査を実施し、年度内に移設工事が完了する見込みとなっております。

（消防屯所の整備について）

次に、消防屯所の整備について申し上げます。

町は、地域の防災力の向上を図るため、防災拠点施設である、大槌町消防団第4分団（小槌地区）の消防屯所の整備計画を進めております。第4分団の屯

所においては、老朽化が著しく、団員数も減少傾向にあることから、第1部と第2部を統合した形として、消防屯所を整備したいと考えております。屯所整備を進めるにあたり、去る5月18日（水）に小槌地区において22名の町民の皆様のご参加のもと、住民説明会を開催いたしました。

また、第5分団屯所（金沢地区）についても、地元分団の意見をいただきながら、整備計画を進めてまいります。

（大槌町乗合タクシー実証運行事業について）

次に、大槌町乗合タクシー実証運行事業について申し上げます。

町では、駅やバス停から遠い交通不便地域で暮らす高齢者の方々が、交通の不便さを感じ、外出を自粛している状況を踏まえ、「交通不便地域の課題解決」と「高齢者の外出機会の確保」を目的として、大槌町乗合タクシー実証運行事業を開始しました。

本事業につきましては、去る4月4日（月）に出発式を行い、4月5日（火）から運行を開始しております。また、利用登録者数は、5月末時点で、138名であり、乗合タクシーを利用された方は、20名となっております。

引き続き、町民の暮らしを支える、持続可能で効率的な公共交通体系の構築を目指し、事業者とともに取り組んでまいります。

【将来を見据えた持続可能なまちづくり】

(移住・定住の推進について)

次に、移住・定住の推進について申し上げます。

去る4月11日(月)、復興庁と連携し、移住者や関係人口の拡大を目的とした「東北暮らし発見塾」をオンライン開催し、県内外の約30名のご参加をいただきました。引き続き、関係・交流人口の創出に向けて取り組んでまいります。

地域おこし協力隊については、去る5月11日(水)、本年4月から新たに着任した7名の辞令交付式を執り行いました。昨年の隊員と併せまして、合計14名が町内の事業者とともに地域産業の振興や課題解決に取り組んでおります。

今後は、受け入れ先事業者や地域おこし協力隊のマネジメント事業者向けの説明会を開催し、制度の周知と活用を推進しつつ、移住と生業の課題解決に取り組んでまいります。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、人事案件や条例の改正、補正予算案等をご提案申し上げます。

何卒よろしくご審議の上、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。